会議名 財務常任委員会

日時 令和7年3月26日(水) 午後1時50分～午後2時23分

場所 第2・第3委員会室

出席議員(14名) 委員長 谷平敬子 副委員長 須藤智子 委員 梅村 均
委員 片岡健一郎 委員 鬼頭博和 委員 水野忠三
委員 堀江珠恵 委員 大野慎治 委員 日比野 走
委員 井上真砂美 委員 伊藤隆信 委員 塚崎海緒
委員 木村冬樹 委員 榎谷規子

欠席議員 なし

説明員 総務部長 中村定秋、市民協働部長 伊藤新治、福祉部長 長谷川忍、健康こども
未来部長 西井上剛、建設部長 西村忠寿、消防長 岡本康弘、教育部長 石川文
子、総務部専門監 齋藤元英
企画財政課長 佐野剛、同主幹 井手上豊彦、同統括主査 宇佐見信仁、行政課長
兼松英知、市民窓口課長 富邦也、同主幹 寺澤顕

事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同主事 村瀬雄哉

付議事件及び審議結果

議案番号	事件名	採決結果
議案第36号	令和7年度岩倉市一般会計補正予算(第1号)	全員賛成 原案可決

財務常任委員会（令和7年3月26日）

◎委員長（谷平敬子君） ただいまから財務常任委員会を開催いたします。

当委員会に付託されました案件は、議案1件であります。

審査に入る前に、当局から挨拶をお願いいたします。

◎総務部長（中村定秋君） 当初予算を提出した議会にその当初予算の補正を提出するというのは、できれば我々も避けたいなと思っているところでございますけれども、今回、国の施策あるいは事業に関してということで、なかなか情報が届かなかつたりとか、そういったことで当初予算には盛り込むことができませんでした。それで、今回補正ということで追加で提出させていただきます。

グループ長以上が出席しておりますので、丁寧な答弁に努めてまいります。よろしく申し上げます。

◎委員長（谷平敬子君） ありがとうございます。

それでは、審査に入ります。

議案第36号「令和7年度岩倉市一般会計補正予算（第1号）」を議題とします。

当局の説明はいかがいたしましょう。

〔「省略」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（谷平敬子君） 当局の説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑は歳出から行います。

歳出全般についての質疑を許します。

質疑はございませんか。

◎委員（堀江珠恵君） 1点お伺いいたします。

定額減税補足給付金の事業なんですけれども、こちらのほうですが、これに関連して少し令和6年度の2月の補正で物価高騰対応支援給付金というのを低所得者向けに行っているかと思うんですが、そちらのほうは3月末の時点ではもう既に給付のほうは完了しているというふうでよろしかったでしょうか。

◎企画財政課長（佐野 剛君） 現在、給付を始めたという段階になっておりまして、まだ完了というところまでは至っておりません。

◎委員（堀江珠恵君） ありがとうございます。

じゃあ、そちらのほうは完了しなくて、こちらは定額減税で引けない方を対象にしてやられるという理解でよろしかったですか。

◎企画財政課長（佐野 剛君） 今年度、令和6年度に行っている定額給付

金で、その後の状況で変更等がある方に対して、今回給付をするといった制度となっております。

◎委員長（谷平敬子君） ほかに質疑。

◎委員（塚崎海緒君） 給付業務の人材派遣委託料についてお伺いしたいんですが、低所得者の方ということで結構センシティブな内容、内容というか対応になると思うんですけれども、この人材派遣の方に委託をするというのは一般的なのでしょうか、教えてください。

◎企画財政課長（佐野 剛君） 今の御質問は、定額減税の補足給付の人材派遣のということによろしいですか。

やはり受付、確認書等を送付した後に、かなりの書類が一気に一度に集まってくるというんですかね、提出を受けるわけですので、そういった人材派遣の方を、経験等もある方を人材派遣のほうから委託を受けて、岩倉市のほうでは行っているということで、他市の状況というところまでは確認は取っておりません。

◎委員（大野慎治君） 私も定額減税補足給付金給付事業についてお聞かせください。

物価高騰による負担を緩和することというのが目的のところの文末に記載してあるんですが、どうして7月以降に確認書を送付して給付するのか。もう少し早くならないのか、その理由についてお聞かせください。

◎企画財政課統括主査（宇佐見信仁君） 令和6年度に実施した補足給付金は、令和6年の所得税については見込みで計算をして支給をしていますので、この令和6年の所得の額は確定した上で金額を計算して、その差額が足りない人に給付をするというものですので、そういった金額が判明してくるのはまだこれからですので、それをできるだけ急いでやるタイミングが7月頃ということになりますので、このタイミングになっています。

◎委員（木村冬樹君） 定額減税の制度というのは、本当に後々の事務が増えるというやり方で、私から見れば愚かな政策だなあと感じます。前政権が行ったことではありますが、減税にこだわったあまりにこういうことが起きてきているということでもあります。

それで、私も先ほどの定額減税補足給付の不足額給付の給付業務人材派遣委託料についてお聞かせいただきたいと思いますが、先ほど確認書を送付後に、それが一気に戻ってきてということでの事務が増えるということに対応するようなお話がありましたけど、この人材派遣業務の中身というのは具体的にどういうふうなのか。また、人員としては何人ぐらいを想定して委託料を設定しているのかお聞かせください。

◎企画財政課長（佐野 剛君） まず業務につきましては、窓口と電話応対を主に担っていただくこととしております。

あと、派遣の人数なんですけれども、延べでは4名を想定しています。最初の2か月で3名、残りの2か月で1名体制というふうに考えております。

◎委員（木村冬樹君） 分かりました。

要するに、確認書を送った後に、市民からの問合せに対応するという業務だと思います。

ですから、先ほどの質問者にありましたように、極めてセンシティブな情報に触れざるを得ない業務になってくるかなあというふうに思いますので、人材派遣の委託のたびにお聞きしていますが、仕様書や契約の関係でしっかり個人情報を守られるものになっているのかどうか、その点についてお聞かせください。

◎企画財政課長（佐野 剛君） 個人情報の取扱いの適正を図るために、岩倉市といわゆる委託事業者、派遣側の事業者ですね、との間で秘密事項保護に関する覚書というものを締結しております。あわせて、事業者と派遣労働者との間にでも誓約書というものを交わしております、個人情報の取扱いに注意するように徹底しております。

◎委員（木村冬樹君） 分かりました。

先ほどの答弁の中で、少しニュアンスとしては経験のある方ということなことで、言い方をされたと思うんですね。ですから、例えばこの間、コロナの関係の給付金やらいろいろありました。こういったところで、時々急な人材が必要ということでこの人材派遣の委託料を使ってきていると思いますが、同じような方がやっぱり派遣されるという、そういうような傾向があるんでしょうか。それとも、そういう経験が多いという人たちが、やっぱり人材派遣業のほうで登録されて送られてくるという、そういう中身になっているんでしょうか。

◎企画財政課長（佐野 剛君） やはり派遣に際しては、入札という行為は経ていきますけれども、やっぱり派遣元の事業者のほうは、こういった事業に精通しているというか、関わっている人が多くて、岩倉市からもそういった経験のある方を派遣いただくような依頼をしているといったところでございます。

◎委員（梶谷規子君） 定額減税の歳出で、時間外勤務手当についてお聞かせください。

何人の職員で、1日どれぐらいの残業を見込んで、期間としては、先ほどは4か月ぐらいとっていたんですが、その90万円の内訳についてお聞かせ

ください。

◎企画財政課長（佐野 剛君） 積算といたしましては、時間単価に職員4名体制、そして5月から6か月間、そして月当たり15時間という積算をしておりますけれども、やはり月によって業務量というのは変わってくるかと思っています。当初だとか制度の終わり際の勧奨等、こういったところで時間がかかるというふうに考えております。

◎委員長（谷平敬子君） ほかに質疑。

◎委員（水野忠三君） 戸籍への氏名の振り仮名法制化事業のほうについてお伺いします。

説明資料のほうだと、その戸籍情報システムから抽出した情報を基に氏名の振り仮名を記載した通知書を送付するという事で説明いただいていると思うんですけども、この戸籍情報システムというのは具体的にはどのような情報なのでしょうか。

戸籍自体には振り仮名がないのかなと思っていますので、戸籍情報システムから抽出した情報というのは、例えばどういったものなんでしょうか。住民票であるとか、何かほかの、どういったものを念頭に置いておけばよろしいでしょうか。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 今回、戸籍情報システムのほうから抽出する情報でございますが、その方の本籍、それから戸籍の附票がございますので、そちらのほうには現在の住所、お住まいの住所ですね。それから、当然戸籍システムですので筆頭者、それからつながる在籍者といった情報。それから、先ほどの振り仮名ということでございますが、これまで戸籍情報システムでは振り仮名は持ち合わせておりません。これまでも、出生届等を届出させていただく際には振り仮名を振っておりますが、それはあくまで法制化されたものではございません。

よって、住基情報システムでもって仮に用いる情報になってきますので、その仮に持ち得ている情報、こちらのほうを市民の皆様といいますか、市に本籍がある皆様に情報を抽出してはがきに印刷して送ると、そういった内容でございます。

◎委員（水野忠三君） ということは、もしその仮のという情報もない方については、普通の通常の読み方に基づいて推測してお出しするということになるのでしょうか。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 基本的には、全ての住んでみえる住民の皆様には振り仮名がついております。

◎委員（水野忠三君） それからあと、通知書のほうは本籍地の自治体から

送付するという事ですので、現住所あるいは住民票があるところが他の自治体という場合もあると思うんですけども、その現住所というか、要するに通知書の送付先の自治体はノータッチということによろしいのでしょうか。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 今回、振り仮名が違う振り仮名で届出をする場合は戸籍の届出と同じになりますので、これまでも出生届であるとか婚姻届というものは、本籍地以外にも住所のある自治体にも提出がごさいます。

当然、日々の業務においても、本籍地は別だけれども住所が岩倉にあるといった届出は出ておりますが、そういった場合は本籍地の自治体へ向けて回送するというような形になりますので、今回も同様の対応となります。

◎委員（水野忠三君） ということは、通知書の内容記載事項みたいなのが、その本籍地の自治体から現住所のある他の自治体にも何らかの形で伝えられるという理解でよろしいでしょうか。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 委員のおっしゃるとおりで、その自治体のほうに回送いたしますので、伝えることとなります。

◎委員（水野忠三君） あと、ちょっと細かいかなと思うんですけども、この通知書が御本人に届けばいいんですけども、例えば転居とか、現住所がちょっと不明といいますか、通知書が届かなかった場合は、これ別に何か効果を生じるものじゃないので、それは、ちょっと言葉悪いですけど、関係ないという、要するに発信、通知書を出してその人が受領するところまでは関係ないということによろしいでしょうか。

要するに、受領しなくても1年たったら、ここに説明書類でいただいているような扱いになるのかということをお伺いしたいと思います。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 仮に届かない場合も、法律改正法施行日の1年後の令和8年5月26日以降に記載予定の振り仮名が記載されるという仕組みです。

◎委員長（谷平敬子君） ほかに質疑はございませんか。

◎委員（塚崎海緒君） ありがとうございます。

先ほど自分でググってこの目的をちょっと調べたんですが、認識として間違っているといけないので、そもそもこれをする目的を教えてくださいありがとうございます。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 今回の戸籍への氏名の振り仮名法制化の目的は、これまで戸籍におきましては氏名の振り仮名というものは記載事項とされておりませんでした。すなわち、戸籍上公証されておりませんでした。この戸籍法の改正によって、戸籍の記載事項に新たに追加することで、

氏名の振り仮名が公証することができるようになります。

その結果として、効果としては、これまで我々行政機関等が保有する氏名の多くの情報というのは漢字で表記されておりました。例えば、氏、同じ漢字でも様々な字体が用いられておりますので、そこには外字が使用されておる場合もございます。こういったデータベース化の作業が複雑になりまして、特定の者の検索に時間を要する、そういった状況にございましたが、これが氏名の振り仮名が戸籍上一意に特定されることによって、データベース上の検索等の処理が容易になり、誤りというものを防ぐことができるようになります。

◎委員（木村冬樹君） 分かりました。

振り仮名の問題は、これマイナンバーの関係も含めていろいろトラブルが起こっているところでもありますので、日本だけのこういう制度になってくるとは思います。これも大変な作業だなというふうに思います。

それで、通知ですので、要するに何か問題ない限りはそのままという形で受け取るほうはいいということだと思んですけど、やはりこういうものが突然送られてきますと、非常に市民も戸惑うことがあるというふうに思います。

そういった点で、いろいろ多分周知はされていくんだろなあというふうに思いますが、国がどういう周知をしていくのか、あるいは全体的なメディアといいますか、そういう周知もあるのか。そして、市はどのような周知をしていくのか。こういった点についてまず教えていただきたいとします。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） これまで、国による周知が先行して行われております。

先月2月にはテレビのCM放送、インターネット広告、それからフライヤー、A4サイズのチラシに当たりますけれども、こういったものによる周知がなされております。そして、今月3月以降ですけれども、先日3月20日付の朝刊にも掲載されておりましたが、地方新聞への掲載であるとか、広報動画が公開されております。また、4月以降もSNS等で動画広告が予定されていると聞いております。

それから、市といたしましても、ホームページで周知していくほか、氏名の振り仮名確認通知書を送付する直前の広報「いわくら」において、市民の皆様向けに周知記事を予定しております。以上です。

◎委員（木村冬樹君） 歳出が委託料と郵送料ということでもありますので、どういうふうになっていくのかなと思うところです。

というのは、要するに委託でほぼ業務が終わっていくものなのではないかと

というところで、この委託についてはもう想定されている委託先があるのかどうか。また、その委託する業務の中身についても、どの範囲なのか教えていただきたいと思います。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 今回、戸籍システムが持つ情報を基に振り仮名の確認通知書を作成いたします。この戸籍システムの保守等を現在委託しておりますシステム事業者のほうに通知書のほうの作成を委託するものであります。

委託内容といたしましては、圧着式はがきに戸籍情報から抽出した宛名や送付先の住所、戸籍に記載されている方の氏・名、その振り仮名等を印刷していただき、圧着した状態で納品いただくものになります。

なお、圧着式はがきを用いることで、筆頭者以下、在籍者の氏や名、本籍といった個人情報を圧着することで、他者の目に触れないような形にして送付することになりますので、個人情報の保護にも努めております。以上です。

◎委員（水野忠三君） この改正法が令和7年5月26日、今年の5月26日に施行ということで、この制度開始後に出生届や帰化届の届出時に合わせて振り仮名を届け出ることによって振り仮名が記載されるという説明資料のほうにあるんですけども、これから制度開始までの間の方は、出生届とか帰化届を出された場合に、改めてまた再び何か振り仮名の届出、説明資料に書かれているようなことをしなければいけないのかどうか、それを確認したいと思います。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 現在、国のほうで説明会が何度か開催されておりまして、改正法施行日である令和7年5月26日以降に届け出られた出生届、帰化届といったものには、先般の一般質問でもございましたが、振り仮名として妥当であるか妥当でないかといったところは26日以降に関わってくる。当然にして、きらきらネームということもございましたけれども、そういったものは審査していくような形ですので、改正法施行日前の25日までは、従前どおりの届出の取扱いとなってきます。

◎委員（水野忠三君） 理解できます。ただ、ワンストップといいますか、再びということであれば、事前に届け出ておいていただいて、それを26日以降に受理するというような、そういう運用みたいなものは無理、難しいということですかね。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 届出はその日、その日が届出日になりますので、それを保管しておいてとか、そういったことはいたしておりません。

◎委員（梶谷規子君） この業務は、積算内訳には会計年度任用職員とかは入っていないんですが、今の体制でやれるという想定なんですか。職員

何人体制での業務になるのでしょうか。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 現在、窓口グループといたしましては、私含めて8名の職員で事務に当たっております。

市のほうから振り仮名の通知を送るまでは、十分今の体制ではやっていきます。もちろんこれ委託もいたしますので、そこら辺の労力の負担というものはさほどございませんが、振り仮名通知が皆様のお手元に届きまして、届出が恐らく一定期間の間に集中して提出されることが想定されますので、その届出が出されると、当然システムへの入力であるとか電話対応、窓口対応というものも考えられます。

今後、その作業などに係る人件費、その他経費というものが必要となった場合は、改めて予算化のお願いをしていきたいと考えております。

◎委員（木村冬樹君） 戸籍への氏名の振り仮名法制化事業についてお聞かせください。

こういった事業につきましては、国の法律に基づいてということで、本来であれば国費が100%充てられるべきだというふうに思いますが、一般財源の11万3,000円というのはどういう内容なのでしょうか。国庫の関係の補助率みたいなものがあるのでしょうか。その辺の内訳について教えてください。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 今回、補助金の上限額がございまして、先ほど来、岩倉市に本籍がある方に対する住所地に送りますので、実は自治体ごとに本籍数に偏りがございまして、あらかじめ国のほうで総額の補助金に対して岩倉市の分としてお示しされたのがこの金額になってまいります。もちろん戸籍というのは日々変動いたしますので、現在想定しておる通数からは今後も上下してこようかと思っております。

それからあと、戸籍によっては、これ今回お送りするおはがき、圧着式はがきというのが1枚につき4名までの対応となっておりますので、当然5名以上の戸籍もございまして。他に、同じ住所に住んでみえても本籍地が違ったりといった場合もございまして、そこら辺の兼ね合いもございまして、今回ちょっと国のほうからお示ししたものと幾らか誤差が出ております。

ただ、これも実際に送ってみますと、この誤差がちょっとどうなるかというのはまだ実際にはがきが出来上がってこないと何とも言えないというところでございます。

◎委員（木村冬樹君） とことん聞いていたらちょっと大変になるかもしれませんが。だから、要するに国は上限額を決めているということで、だからほかの自治体も含めて、多分一般財源から入れていかなきゃこの事業は成り立たないという、そういう状況になっているということですかね。

◎市民窓口課主幹（寺澤 顕君） 近隣の自治体には確認しておりますが、近隣自治体はやはり足が出ているというふうに聞いております。

◎委員長（谷平敬子君） ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（谷平敬子君） ないようですので、以上で歳出についての質疑を終結いたします。

次に、歳入に入ります。

歳入全般についての質疑を許します。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（谷平敬子君） ないようですので、以上で歳入についての質疑を終結いたします。

お諮りします。

委員間討議を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（谷平敬子君） 御異議なしと認め、委員間討議を省略します。

次に、議案に対する討論に入ります。

討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（谷平敬子君） 討論はないようですので、直ちに採決に入ります。

議案第36号「令和7年度岩倉市一般会計補正予算（第1号）」について賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

◎委員長（谷平敬子君） 挙手全員であります。

採決の結果、議案第36号は全員賛成により原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、当委員会に付託されました議案は議了いたしました。

なお、本委員会の委員長報告の文案につきましては、正・副委員長に御一任願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（谷平敬子君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で、財務常任委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。